



1. 2次試験は“難しい”のではなく“違う”

1 一般の資格試験における「王道」とは

- ① 一つの学校一つの教材に絞り浮気をしない
- ② 問題数をできる限り多くこなす
- ③ 模試を本試験と思いでできる限り受け、上位を目指す

しかし中小企業診断士2次試験についてはあてはまらない—なぜなら

- ① **その学校や教材の答えが正解かどうかはわからない** **重要!**
- ② 新作問題はクオリティで本試験にかなわない上に採点基準が怪しい
- ③ 模試と本試験の相関が他の試験に比べ低い

2 求められる能力

- ① 知識力—必要とされる絶対量は少ないが要求される基準は極めて厳しい
100% 確実に引き出せ且つ答案に表現できるレベルが必要
- ② 読解力—記述試験でこの力が要求されることは稀である。おそらく日本の国家試験ではこの試験だけ。しかしこの力が合否を決する事も多々有り
- ③ 思考力—この試験ではロジカルシンキングが重要—論理矛盾の答案には極めて悪い点が付く
- ④ 記述力—試験委員との接点は答案だけ——意味不明の答案には0点が付く
- ⑤ (計算力)—事例IV克服には不可欠

KECに来られない方へ

次にも述べますが、一校、一教材に絞った学習はこの試験に限っては極めて危険です。また冷静に自分を見つめ、求められる能力に不足があれば徹底して能力アップに集中してください。どの能力が欠けても合格が遠のきます。

2. あなたは過去問を“わかったつもり”になっていませんか？

1 一番怖い「わかったつもり」

自分で一通り過去問を解き自校や使用教材の解説を読み模範解答と比較して終わり。これは「過去問をわかったつもり」の典型例です。そもそもその模範解答が正解かどうかは神のみが知るのがこの試験です。

分析の本質は比較にあります。他の解答例と比べなければ自己の間違いを理解するのは困難であるという事実としっかりと向き合ってください。

2 事例問題ダイジェスト (平成23年度 事例Iより)

A社は、中小企業には珍しく、創業家一族は社長でも、大株主でもない。現社長は、高校卒業後に数年間の工場勤務を経て、創業家のトップの下で営業担当者として本社や首都圏の支店で勤務した後、40歳の初めに本社の営業部門の管理職に就いた。その後、A社は業績面で少なからず浮き沈みがあったものの、現社長がトップに就任して以降比較的順調に事業を拡大してきた。近年の国内の景気低迷の中にあっても、毎年一億円程度の増収を達成している。また、我が国とは法や規制の異なる欧州や米国、今後の成長が期待できる中国など海外の市場開発にも積極的に取り組み始めている。

また、以前から救急用絆創膏中心の医療品依存を懸念していた現社長は、事業多角化にも乗り出した。「健康・美」を求める中高年層をターゲットに、化粧品事業や健康食品事業に参入した。これら新規事業は、開発から販売まですべてを自己完結的に行うのではなく、地元の大学や研究機関、流通業者と連携して事業を展開している。例えば、化粧品事業では、地元の大学と共同開発した結果、原材料費のコストを大幅に下げることができた上に、成分の改善にも成功した。また、健康食品事業では、地元の生協と新商品の共同開発や共同販売も行っている。

第2問 (配点20点)

厳しい競争を展開している医療品業界にあって、新商品や新規技術の開発は極めて重要である。しかしそうした中で、A社では、自社開発した技術の特許をあえて出願しないこともある。その理由として考えられることを、100字以内で説明せよ。

※解答例は裏面へ

KECに来られない方へ

必ず他校、他教材を最低でも2つ以上(自分と合計して3種類以上)用意し徹底的に比較分析しましょう(少なくとも直近5年分)。その際事例をI、II、IIIと順番に行うより事例Iなら事例Iを5年分等集中して行う方が効果が高いです。学習する順番を軽視する方は多いですが、実は極めて重要です。このDVDの1次対策に収録している「合格への7つの公式」もぜひご覧ください。

2次

KECオリジナル2次セミナー

【無料】DVD資料

3. 『事例Ⅳ(財務事例)の恐怖』とは？

財務会計を得意としている人がバタバタと落ちる

原因1ー 疲労困憊の4時限目

原因2ー 手ごたえが良い人はー「合格」が頭に浮かぶ
手ごたえが悪い人はーここで「何とか逆転」と気合いが空回りする
つまり「**異常な精神状態**」と「**心身の疲労困憊**」という悪条件下にある

更に良くないことに

原因3ー そもそも「計算」は「文章」を書くより「**本質的にミスを誘発しやすい性質**」を内在している

KECの対策

1. 解法そのものにミスを最小限に抑えるリスクマネジメントを織り込み、多少の疲労や精神状態が悪くても正解にたどり着けるように工夫する。

2. 試験中、精神状態が悪化した場合に備え、実践的な心身コントロールの技法をトレーニング。

残念ながら、完全に問題の解決を図る事は不可能です。しかし上記の対策を事前にしつかりと準備しておいた受験生と、何の用意もせずに試験に突入してしまった受験生、どちらが大事故を起こす可能性が高いかはご理解いただけるのではないかと思います。

KECに来られない方へ

事例Ⅳについては上記の問題点を踏まえたうえで、是非自分なりの対策を十分に立てて準備をしたうえで本番に臨んでください。無策のまま本番を迎えることは何としても回避しましょう。

8月
8日(木)

KECの2次対策講座について詳しく知りたい方は**8月8日(木)**

より連日開催の無料セミナーにぜひお越しください。

また2次試験の学習や実際の受験に際し「**知っているだけで役立つ**」

テクニックや注意等の情報もお伝えできると思います。

<事例問題ダイジェストの解答例>

<A>

理由は、事業多角化や新市場開発等の事業展開のスピードを優先するためと考えられる。具体的には大きく変化する経営環境の中、大学や研究機関と連携した商品開発や海外市場への進出の迅速化である。

理由は①特許申請や維持費用などの費用対効果が不透明、②技術をクロスする事による技術製品の優位性の確保、③大学や研究機関等との連携共同開発のため自社独占の特許申請が難しい。事が考えられる。

<C>

特許出願をすると出願情報が公開される。法や規制の異なる外国でこれを模倣された場合、その損害は回復が著しく困難、又は不可能になる。ブラックボックスにしておけばその心配はない。